

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン進捗状況報告書

申請担当大学名	金沢大学
プログラムの名称	北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン
連携大学名 (申請担当大学も含む)	富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学 (計5大学)

<連絡先>

申請担当大学の 事業推進責任者 連絡先	職名・氏名	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科長・金子周一
	TEL	076-265-2233
	FAX	076-234-4250
	E-mail	skaneko@m-kanazawa.jp
申請担当大学の 事務担当者 連絡先	職名・氏名	金沢大学医薬保健系事務部会計課長・高桑 謙一
	TEL	076-265-2119
	FAX	076-234-4206
	E-mail	kenta@adm.kanazawa-u.ac.jp

(記入要領・共通)

・本報告書については、平成24年度、平成25年度、平成26年度実績について、記入をお願いします。(平成26年度実績については、平成26年10月31日までを対象とします。)

・行が不足する場合は追加してください。ただし、列の追加や削除等は行わないでください。ページ設定や書式、フォント等は変更しないでください。

・定量評価では、大学毎に数字を記入してください。
実績がない場合は「0」、正確な数字を把握していない場合は、「なし」と記入してください。

・定性評価では、申請担当大学と連携大学の状況を総括して記入してください。
(可能な限り数値データにより効果等の根拠を示してください。また、総括のほか、個別の大学の事例を記入することも可能です。)

・総括表及び定性評価では、決められたページ数や字数、行数を超えて記入することはできません。
(公平を期するため、印刷した際に超えた分等に記載されている内容は評価の対象外とします。)

・定性評価では、事業開始前から各大学が行っている取組についての成果や効果は、本事業の成果や効果とは見なしませんので記入しないでください。

・定性評価では、読みやすさを考慮し、重要な部分やポイントとなる部分について、下線等を用いて記入してください。

・進捗状況報告書に虚偽の記載が見つかった場合は、評点の減点を行います。

1. 総括表

【様式1(総括表)】

(1) 取組概要

(400字以内で記入)

本事業は、北陸地区における医科系4大学・看護系1大学で構成し、スキームは①がん教育改革(本科8コース)、②地域がん医療(インテンシブ11コース)、③がん研究者養成(本科2コース)より構成する。①がん教育改革については、IPEによるチームマインド養成カリキュラム、多職種連携によるチーム医療のリーダー養成カリキュラム、医科系大学連携による単位互換制度を特徴とする。②地域がん医療については、能登北部地区等の医療過疎地域を拠点とした地域がん医療研修、インテンシブコースによる地域がん医療の指導者養成、がん専門医の地域定着を狙いとするコースを設けている。地域がん医療に貢献できる看護師養成コースを設け、地域看護の活性化、休職中看護職復帰へ繋げる。③がん研究者養成については、国際機関連携教育、卒前卒後一貫教育、MD-PhDによる学部・大学院一貫教育による高度な研究能力を有するがん研究者養成を図る。

(2) これまでの主な取組・特記すべき取組

(箇条書きで記入:各年度最大5項目程度、26年度は最大3項目程度)

年度	主な取組
24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんプロネット」ホームページを開設・更新して、一般市民、医療従事者、受講者に最新の医療情報の提供を行った。 ・金沢大学、富山大学及び福井大学において、がんに特化した臓器横断的な講座を設置した。 ・テレビ会議方式によるがんセンターボード症例検討会およびがん看護事例検討会を定期的に開催した。 ・北陸がんプロ運営協議会を開催して、石川、富山、福井の各県の医科系、看護系大学、医療機関、行政機関、医師会、患者代表等との連携強化を図った ・市民公開シンポジウム、FD講演会等を開催して、患者や一般市民に最新・最適な診断・治療法の紹介や、医師および医師以外の医療スタッフの資質向上を図った。
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学で、平成25年度入学生のオリエンテーションに際し、北陸がんプロがん専門医養成コースや研究者養成の教育コースの案内を行った。また、インテンシブコースについても募集案内を行った。 ・北陸がんプロ研究者養成コースで、平成25年度から米国人による医学英語教室を開講して世界に通用する研究者の養成を図った。 ・「がんプロネット」ホームページに、金沢ケーブルテレビネットで放送された「がん専門医による、がんの最前線の情報や最新治療状況などを分かりやすく解説」をアップデートして、一般市民・医療従事者・受講者に最新医療情報の提供を行った。 ・英国への緩和ケア養成研修を行って、最新のシームレスな包括的緩和ケアシステムを学ぶことができた。 ・市民公開シンポジウムやFD講演会等を開催して、患者や一般市民に最新・最適な診断・治療法の紹介や、医師および医師以外の医療スタッフの資質向上を図った。
26年度 (~10/31)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度入学生のオリエンテーションに際し、北陸がんプロがん専門医養成コースや研究者養成の教育コースの案内を行った。また、インテンシブコースについても募集案内を行った。 ・北陸がんプロ研究者養成コースで、受け入れた大学院生が米国シアトルで開催された第29回国際HPV学会で研究成果を英語で発表した。 ・市民公開シンポジウムやFD講演会等を開催して、患者や一般市民に最新・最適な診断・治療法の紹介や、医師および医師以外の医療スタッフの資質向上を図った。

2. 達成目標1:放射線療法、化学療法、手術療法、緩和ケア、小児がん、がん研究等のがん医療に携わる専門的な医療従事者の育成

(1) 定量評価(別紙様式2-1~2-5に記入のこと)

(2) 定性評価

※定量評価以外の成果や特に評価に値する点等を記入

(15行以内で記入)

・テレビ会議システム使用による「がんプロキヤンサーボード症例検討会」は、北陸がんプロ4医科系大学持ち回りで担当しており、各大学における症例が提示され、最新の診断・治療・緩和ケアが検討されている。参加施設は4医科系大学のみならず、地域医療機関を含んでおり、北陸地区におけるがん医療の均てん化に大きく寄与している。検討症例は、キヤンサーボード運営委員会において、担当月に診療領域を審議・決定しており、抄録、議事録も整備されている。今後も参加希望の医療機関に対し、テレビ会議システムを設置し、拡充を図る予定である。

・FD講演会および教育セミナーを開催し、各地域のがんプロ事業の取組を含めて各専門化による最新情報の提供を得て、地域の均てん化と共に組織のレベルアップを図った。

・がんプロに関するコンテンツは、各大学のホームページに詳しく掲載し、がんプロ受講生の募集案内や、キヤンサーボード症例検討会、FD講演会・教育セミナーおよび市民公開講座の開催案内としても活用している。

・外部者が参加する地域連絡協議会を開催して、北陸3県のがん診療に携わる医療スタッフの地域医療への均てん化を図った。

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」養成実績調書【入学者数等】

【様式2-1(達成目標1:定量評価)】

大学等名:金沢大学
 連携大学等名:富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学

コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	重点区分別	修業年限	養成する専門分野	職種別(別紙区分より選択)	入学開始時期	①入学者数等												②在学者数(H26.10.1現在)								③修了者数															
							募集人員						受入目標人数						受入実績(※旧がんにプロからの移行者を除く)				合計	1年次		2年次		3年次		4年次		合計	H24		H25		H26					
							計	H24	H25	H26	H27	H28	計	H24	H25	H26	H27	H28	計	H24	H25	H26	計	うち旧がんにプロ移行者数	在学者数	うち旧がんにプロ移行者数	在学者数	うち旧がんにプロ移行者数	在学者数	うち旧がんにプロ移行者数	在学者数	うち旧がんにプロ移行者数	在学者数	計	うち旧がんにプロ移行者数	修了者数	うち旧がんにプロ移行者数	修了者数	うち旧がんにプロ移行者数	修了者数	うち旧がんにプロ移行者数	修了者数
計							103	2	24	25	26	26	84	0	18	20	23	23	75	0	56	19	75	0	16	0	48	0	11	0	0	0	2	2	0	0	2	2	0	0		
金沢大学大学院医療保健学総合研究科がん医学専攻	がんチーム医療リーダー養成コース	①	4年	がん治療専門医(チーム医療リーダー)	⑦	H24.10	14	2	3	3	3	3	12	0	3	3	3	3	44	0	40	4	44	0	3	0	35	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
富山大学医学部生命・臨床医学専攻、富山大学医学部教育 東部東部統合医学専攻	がん専門医療人リーダー養成コース	①	4年	臨床腫瘍医、放射線治療医、がん緩和ケア医	⑦	H25.04	12	/	3	3	3	3	12	/	3	3	3	3	1	/	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻	がん専門医療リーダー養成コース	①	4年	がん治療専門医	⑦	H25.04	8	/	2	2	2	2	8	/	2	2	2	2	2	/	1	1	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
金沢医科大学医学部生命医学専攻	がんプロフェッショナルがん専門医療リーダー養成コース	①	4年	臨床腫瘍学	⑦	H25.04	12	/	3	3	3	3	10	/	2	2	3	3	7	/	4	3	7	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
金沢大学大学院医療保健学総合研究科薬学専攻	がん専門薬剤師養成コース	①	4年	がん専門薬剤師	⑧	H25.04	8	/	2	2	2	2	6	/	1	1	2	2	6	/	4	2	6	0	1	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
金沢大学大学院医療保健学総合研究科理学専攻	がん専門放射線技術・医学物理コース	①	3年	診療放射線技師、医学物理士、放射線治療品質管理士	⑪	H25.04	8	/	2	2	2	2	4	/	1	1	1	1	4	/	2	2	4	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
富山大学医学部薬学専攻	がん専門薬剤師養成コース	①	4年	がん専門薬剤師	⑧	H25.04	8	/	2	2	2	2	4	/	1	1	1	1	2	/	1	1	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
石川県立看護大学看護学専攻看護学専攻前期課程実践看護学領域成人看護学分野	がん看護専門看護師養成コース	①	2年	がん看護専門看護師	⑨	H25.04	12	/	3	3	3	3	8	/	2	2	2	2	4	/	1	3	4	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	/	/	2	2	0	0
金沢大学大学院医療保健学総合研究科がん医学専攻	がん研究者養成のための卒前・卒業一貫教育コース	③	4年	がん研究医	⑦	H25.04	9	/	1	2	3	3	9	/	1	2	3	3	5	/	3	2	5	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
富山大学医学部生命・臨床医学専攻、富山大学医学部教育 東部東部統合医学専攻	がん研究者養成コース	③	4年	がん研究者	⑦	H25.04	12	/	3	3	3	3	11	/	2	3	3	3	0	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

(留意点)
 ①本様式については、平成26年5月26日付け全国がんプロ協議会が行った様式をベースとしています。同調査回答及び記入要領を参考に作成をお願いします。

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」養成実績調書【インテンシブコース】

大学等名:金沢大学
 連携大学等名:富山大学、福井大学、金沢医科大学、石川県立看護大学

コースを開設している 大学名	コース名	期間(時間数等)	養成する専門分野	職種別 (別紙区分より選択)	実施形態 (下記※より選択)	実施時期 (実施年月日)	入学 開始 時期	終了 時期	①入学者数等(受入実績)						②修了者数									
									合計		H24		H25		H26		合計		H24		H25		H26	
									計	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数	入学者数	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数	入学者数	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数	入学者数	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数	計	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数	修了者数	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数	修了者数	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数	修了者数	うち旧 が ん ブ ロ 移 行 者 数
計									114	0	7	0	38	0	69	0	35	0	5	0	22	0	8	0
金沢大学	地域医療人のためのがん生涯教育コース	1年	がん治療専門医	⑦	2 通年	H24.10	H29.03	11	0	0	0	5	0	6	0	4	0	0	0	2	0	2	0	
金沢大学	がん専門薬剤師養成コース	3ヶ月～1年	がん専門薬剤師	⑧	2 通年	H25.04	H29.03	9	0	/	/	4	0	5	0	0	0	/	/	0	0	0	0	
金沢大学	地域がん医療人養成コース	1年	看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士	⑫	2 通年	H25.04	H29.03	17	0	/	/	10	0	7	0	10	0	/	/	8	0	2	0	
富山大学	地域がん専門医師養成コース	3ヶ月～1年	がん専門医	⑦	2 通年	H24.10	H29.03	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
富山大学	がん専門薬剤師養成コース	3ヶ月～1年	がん専門薬剤師	⑧	2 通年	H25.04	H29.03	3	0	/	/	1	0	2	0	0	0	/	/	0	0	0	0	
富山大学	地域がん看護師養成コース	1年	看護師・保健師・助産師	⑫	2 通年	H25.04	H29.03	9	0	/	/	4	0	5	0	0	0	/	/	0	0	0	0	
福井大学	在宅緩和医療医師養成コース	1年	在宅診療医師	⑥	2 通年	H24.10	H29.03	6	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	1	0	
福井大学	在宅緩和医療スタッフ養成コース	1年	在宅診療医療スタッフ	⑫	2 通年	H24.10	H29.03	21	0	0	0	2	0	19	0	3	0	0	0	0	0	3	0	
金沢医科大学	がんプロフェッショナル専門医養成系コース	1年	臨床腫瘍学	⑦	1 通年	H24.10	H29.03	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	
石川県立看護大学	地域がん看護師養成コース	1年	がん看護(緩和ケア)	⑨	2 通年	H24.09	H29.03	28	0	4	0	9	0	15	0	11	0	2	0	9	0	0	0	
石川県立看護大学	地域がん看護活性化コース	1年	がん看護(緩和ケア)	⑨	2 通年	H24.10	H29.03	8	0	2	0	3	0	3	0	5	0	2	0	3	0	0	0	

(留意点)
 ①本様式については、平成26年5月26日付け全国がんプロ協議会が調査を行った様式をベースとしています。同調査回答及び記入要領を参考に作成をお願いします。

※ 実施形態については、下記番号いずれかを選択

- 1.科目等履修生等の制度利用によるもの。(大学院等で開設している科目を履修することを要件とするものを含んでいるコース)
- 2.公開講座、研修等の制度利用をしているもの。(科目等履修生等の学則上の制度利用をしていないもの)
- 3.その他(備考欄に実施形態を記載:基本的には1.2いずれかに分類すること)

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン申請一覧(がんに特化した講座の設置計画)

【様式2-4(達成目標1:定量評価)】

※その他とは複数の分野や分野を特定しない講座

申請大学名	大学名	講座番号	名称	分類	目的	体制	総計	専任						兼任					備考	設置予定年月	財源	設置状況
								計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師	助教				
金沢大学	金沢大学	1	金沢大学大学院医療保健学総合研究科がん医科学専攻がん制御学講座国際がん治療学分野	その他	がんに特化した集学的治療を遂行できるがん治療医養成を目的とし、指導教員として集学的治療に関わる専門分野教員を充当する。国際的視野習得のため、一定期間の海外研修を義務づける。	集学的治療学教授(兼任)、腫瘍内科学教授(兼任)、放射線治療科臨床教授(兼任)、緩和ケアチーム臨床准教授(兼任)、助教1名(専任)	5	1				1		4	3	1				平成24年10月	研究拠点形成費等補助金	○ (H24.10)
							5	1				1		4	3	1						
	富山大学	2	富山大学医学薬学研究部臨床腫瘍学講座	その他	臨床腫瘍学の教育・研究を通して、優れたがん専門医療人を養成する。地域がん医療の質向上に努めるとともに、国内外の機関との連携により、高度な研究能力を持ったがん研究者を養成する。	教授もしくは准教授1名(兼任)、助教1名(専任)	2	1				1		1	1					平成24年10月	研究拠点形成費等補助金	○ (H24.10)
							2	1				1		1	1							
福井大学	3	福井大学医学部腫瘍病態治療学講座	その他	がん治療における手術、化学療法、放射線治療、栄養評価及び緩和ケア等に関する研究等を幅広く行い、治療から終末期までの総合的がん治療を遂行できる医療人の養成を行う。	教授1名(兼任)、助教1名(専任)	2	1				1		1	1					平成24年10月	研究拠点形成費等補助金	○ (H24.10)	
						2	1				1		1	1								

1 本様式については、平成26年5月26日付け全国がんプロ協議会が調査を行った様式をベースとしています。同調査回答及び記入要領を参考に作成をお願いします。

2 申請時から変更した場合は、見え消し朱書きで記入してください。

3 変更申請時から再度の変更のあった場合、体制欄は次により記入してください。

①上段には、申請時の内訳・人数を下段には現員(H26. 10. 1現在)を青で記入してください。

【様式2-5(達成目標1:定量評価)】

○定量評価

取組内容	大学名等	24年度		25年度		26年度		(記入要領)
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	
(1)コース履修者・修了者の満足度調査	金沢大学	/	/	/	7	/	9	・24、25、26年度参加人数欄については満足度調査を実施した履修者もしくは修了者数を記入
	石川県立看護大学	/	1,146	/	393	/	162	
	計	/	1,146	/	400	/	171	
(2)教員の指導技術向上等のためのファカルティディベロップメントの各年度における開催数・参加人数	金沢大学	5	297	6	351	3	206	・24、25、26年度欄については教員の指導技術向上等のためのファカルティディベロップメントの開催数、参加人数を記入。
	富山大学			11	248	4	107	
	福井大学	1	94	2	153	1	88	
	金沢医科大学	13	453	11	363	8	209	
	石川県立看護大学	12	1475	13	1142	9	638	
計		31	2319	43	2257	25	1248	
(3)外部評価の実施状況	/	0	/	0	/	0	/	・24、25、26年度欄については外部評価の開催数を記入。 外部評価については、各大学ごとではなく事業全体の外部評価に限る。
計		0	/	0	/	0	/	

(1) コース履修者・修了者の満足度調査について、調査対象者、調査回答者、調査内容、調査結果及び調査結果を踏まえた改善内容について、記入してください。(5行以内で記入)

・平成25年度と平成26年度にがん専門薬剤師養成コースの講義・演習の参加者に実習内容等の評価についてアンケート調査を実施した。その結果、それぞれの年度で90%、95%が良好との評価だった。
 ・平成24年度からがん看護事例検討会を実施し、その効果を受講者にアンケート調査を実施した。その結果、「とても満足」、「満足」が85%だった。25年度、26年度は、事例検討会実施に関する内容、運営方法等について調査を行い、その結果、85～94%が満足であった。また、リンパ事例検討会、倫理事例検討会、公開講座でも調査を実施した結果、セミナーの内容、時間等について99%が満足している。

(2) ファカルティディベロップメントの内容や参加対象者等について、記入してください。(5行以内で記入)

がんの診断・治療・緩和医療等に関する専門家を招いて、最新の情報を得る目的でFD講演会を依頼し、医師、医療従事者、基礎研究者および大学院生等を対象として開催して資質の向上を図った。
 また、連携5大学と地域がん診療連携病院等の医師、医療従事者が参加するFD講演会を定期的に開催して、がん医療の向上と均てん化を図った。

(3) 外部評価において、指摘を受けた内容及びその内容を踏まえた改善内容を記入してください。(5行以内で記入)

平成27年3月に実施する予定である。

3. 達成目標2: チーム医療、がん登録、がんの普及啓発等の推進

(1) 定量評価(別紙様式3-1に記入のこと)

(2) 定性評価

※定量評価以外の成果や特に評価に値する点等を記入

(15行以内で記入)

・テレビ会議システム使用による「がんプロキヤンサーボード症例検討会」は、北陸がんプロ4医科系大学持ち回りで担当しており、各大学における症例が提示され、最新の診断・治療・緩和ケアが検討されている。参加施設は4医科系大学のみならず、地域医療機関を含んでおり、北陸地区におけるがん医療の均てん化に大きく寄与している。検討症例は、キヤンサーボード運営委員会において、担当月に診療領域を審議・決定しており、抄録、議事録も整備されている。今後も参加希望の医療機関に対し、テレビ会議システムを設置し、拡充を図る予定である。(参加地域医療機関数21施設)

・市民公開講座は各県医師会、病院薬剤師会、看護協会、がん診療連携協議会等と連携して行っている。

・がんプロに関するコンテンツは、各大学のホームページに詳しく掲載し、がんプロ受講生の募集案内や、キヤンサーボード症例検討会、FD講演会・教育セミナー及び市民公開講座の開催案内としても活用した。

・金沢大学のがんプロホームページのコンテンツで、金沢ケーブルテレビネット自主制作番組「まちスタ530」で放送され、がん専門医によるがんの最前線の情報や最新治療状況などを分かりやすく解説しているコーナーの「元気のヒミツ」のバックナンバーを配信して、広く一般市民に公開している。

・緩和ケアチームのがんによる身体的、精神的苦痛の軽減に、人が生きる意味を問う生と死について対話する「がん哲学外来」を開設した。

・市民公開講座の開催案内や、講演内容を新聞記事として掲載し、がんに関する情報の啓蒙を図った。

【様式3-1(達成目標2:定量評価)】

○定量評価

事項	大学名	名称	分類	目的 (具体的な活動内容を簡潔に記入)	24年度	25年度	26年度
新たに導入したがんに関する医療チーム	金沢大学	緩和ケアチーム	③	苦痛の中をいかに生きるかを共に考える「がん哲学外来」の開設拡充		○	
	金沢医科大学	緩和ケアチーム	③	化学療法の副作用対策、心のケア、社会的問題への対応を含めた全人的なサポートチーム拡充	○		
	金沢大学	がんサロン	④	医療関係者によるがん情報の提供とがん患者や家族が自由に語り合う場「がんサロン」の開設			○

(記入要領)

・大学病院においてがんに関する医療チームを組織している場合にチームの名称を記入し、年度欄には、その医療チームを置いている年度に○を記入。

※ 分類については、①「放射線療法」、②「化学療法」、③「緩和ケア」、④「その他」のいずれかを選択

※ 「新たに」の定義については、本事業開始後に、発展的に改変・拡充したものも含めることができる。

(参考)事業開始前である平成23年度の状況についても下表に記入してください。

事項	大学名	名称	分類	目的 (具体的な活動内容を簡潔に記入)
がんに関する医療チーム (事業開始前)	金沢大学	緩和ケアチーム	③	麻酔科医、精神科医等によるがんによる身体的、精神的苦痛の軽減
		外来化学療法室	②	がん医療に携わる専門医等により最良の治療方針を決定
	富山大学	キャンサーボード部門	④	がん患者一人一人の最良の治療方針を決定
		外来化学療法部門	②	各科専門医等の管理下で通院での抗がん剤治療を安全に行う
		がん緩和ケア部門	③	がんに伴う疼痛、心のケアを担う
	福井大学	通院治療センター	②	多職種から包括的に診療介護する
		緩和ケアチーム	③	各診療科スタッフと連携・協力した患者に緩和ケアの提供
	金沢医科大学	緩和ケアチーム	③	各診療科スタッフと連携・協力した患者に緩和ケアの提供
集学的がん治療センター		②	がん医療に携わる専門医等により最良の治療方針を決定	

(記入要領)

・大学病院においてがんに関する医療チームを組織している場合にチームの名称を記入。

事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度
がんセンターボードの実施数	金沢大学	23	22	23	12
	富山大学	21	20	23	10
	福井大学	23	22	24	12
	金沢医科大学	23	22	24	12
	石川県立看護大学	10	7	3	1
計		100	93	97	47

・実施した年度に、数を記入。

事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度
院内がん患者登録数	金沢大学	2024	2186	2120	261
	富山大学	1076	1020	1128	864
	福井大学	1097	1180	1274	777
	金沢医科大学	1121	1156	1110	584
	計		5,318	5,542	5,632
地域がん患者登録数	金沢大学	1624	1770	1721	210
	富山大学	835	916	918	691
	福井大学	1094	1178	1279	765
	金沢医科大学	1033	1068	1020	559
	計		4,586	4,932	4,938

(記入要領)

がん診療を行っている大学病院における院内がん患者登録数を記入。

地域がん患者登録数を記入。

事項	大学名	24年度		25年度		26年度	
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数
各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	金沢大学	3	1230	2	700	1	200
	富山大学			1	238		
	福井大学	1	334	1	339		
	金沢医科大学	2	221	5	394	1	29
	石川県立看護大学			1	96	1	75
計		6	1,785	10	1,767	3	304
各年度中における各種団体(※)との連携事業	金沢大学	3	1230	2	700	1	200
	富山大学			1	238		
	福井大学	1	334	1	339		
	金沢医科大学	2	221	5	390	1	29
	石川県立看護大学						
計		6	1,785	9	1,667	2	229

(記入要領)

・事業推進責任者が関与したものを記入。(事業推進責任者が関与せず、各講座や各診療科等が主体で実施しているものは除く。)

※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。

事項	大学名	24年度	25年度	26年度
がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数	事業全体	51	57	26
	金沢医科大学	39	34	20
	石川県立看護大学	4	6	7
	計	94	97	53

(記入要領)

・各大学毎にがんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数を記入。事業全体のページについては、大学名欄に事業全体と記入し、更新回数を記入。

4. 達成目標3 個性や特色、得意分野等に応じた各グループ固有の達成目標
(達成目標の枠が足りない場合は、適宜、追加してください。)

※ (4)においては、平成24年4月1日～平成26年10月31日までを対象期間とします。

※ (4)においては、各達成目標ごとに10行以内で回答してください。

(1)達成目標	(2)達成目標に対する評価指標(定量的なもの)	(3)達成目標に対する評価指標(定性的なもの)	(4)実績・取組状況
・患者の立場に立ったがんチーム医療リーダー養成により、円滑な多職種連携による臓器横断的がん医療が進歩し、全人的がん医療が普及する。	・受入目標数がん専門医師20名(24～28年度42名)、がん専門薬剤師8名(24～28年度10名)、がん専門看護師4名(24～28年度12名)、診療放射線技師2名(24～28年度4名) ・がんプロキヤンサーボード症例検討会(テレビ会議方式)を5大学持ち回りで毎月2回開催する。 ・がん看護事例検討会(テレビ会議方式)を毎月1回開催する。 ・学内外から専門家を招聘してFD講演会を定期的に開催する。	・医療スタッフのキヤンサーボード症例検討会(テレビ会議方式)を開催して多職種連携によるがん患者視点の最適な治療法実施するチーム医療リーダーを養成する。 ・キヤンサーボード症例検討会で事前に抄録を作成して症例検討会の充実を図る。	・受入実績数がん専門医師54/20名、がん専門薬剤師8/8名、がん専門看護師4/4名、診療放射線技師4/2名 ・キヤンサーボード症例検討会(平成24年度22回、平成25年度24回、平成26年度10回)開催 ・がん看護事例検討会(平成24年度10回、平成25年度10回、平成26年度6回)開催 ・FD講演会(平成24年度31回、平成25年度42回、平成26年度25回)開催
・地域にがん専門の医療人が定着し、地域のがん医療レベルが向上する。	・受入目標数がん専門医師27名(24～28年度49名)、がん専門薬剤師6名(24～28年度18名)、がん専門看護師20名(24～28年度36名) ・がんプロキヤンサーボード症例検討会(テレビ会議方式)は毎月2回開催する。 ・がん看護事例検討会(テレビ会議方式)を毎月1回開催する。 ・学内外から専門家を招聘してFD講演会を定期的に開催する。 ・地域連絡協議会を毎年1回開催する。	・がんプロ・キヤンサーボード症例検討会に、医療ネットワークを効果的に活用して、地域がん診療連携拠点病院等の医療従事者のキヤンサーボード参加が可能となり、地域における多職種協働の医療スタッフを養成とがん医療の向上と均てん化を図る。 ・「がんプロネット」ホームページで、各種がん治療を開設して、一般市民、医療従事者等へのがん情報を発信する。 ・E-learning教材科目の一部を公開して、その内容を学修することで医療スタッフの質の向上を図る。	・受入実績数がん専門医師12/27名、がん専門薬剤師12/6名、がん専門看護師28/20名 ・修了者数 がん専門医師2名、がん専門看護師11名 ・北陸がんプロフェッショナルエキスパート医2名を認定 ・キヤンサーボード症例検討会(平成24年度22回、平成25年度24回、平成26年度10回)開催 ・がん看護事例検討会(平成24年度10回、平成25年度10回、平成26年度6回)開催 ・FD講演会(平成24年度31回、平成25年度42回、平成26年度25回)開催
・都市部の専門病院と地域医療機関の連携(がん早期発見、術後の経過観察、在宅化学療法、緩和ケア等)が促進され、地域住民の利便性およびがん医療の均てん化が向上する。	・受入目標数がん専門医師18名(24～28年度34名)、在宅診療医療スタッフ22名(24～28年度42名) ・キヤンサーボード症例検討会を毎月2回開催する。 ・がん看護事例検討会(テレビ会議方式)を毎月1回開催する。 ・学内外から専門家を招聘してFD講演会を定期的に開催し医療レベル向上を図る。 ・地域連絡協議会を毎年1回開催する。	・過疎地域において「がんプロエキスパート医」を定着化させるとともに修了後も大学病院との連携を取りながら地域におけるがん診療の向上に繋げる。 ・e-learning教材による質の高いがんプロ教育の均てん化・向上化を図る。 ・医療スタッフのキヤンサーボード症例検討会開催して多職種協働の医療スタッフを養成、均てん化を図る。	・受入実績数がん専門医師7/18名、在宅診療医療スタッフ21/22名 ・修了者数 がん専門医師4名、医療スタッフ3名 ・北陸がんプロフェッショナルエキスパート医1名を認定 ・キヤンサーボード症例検討会(平成24年度22回、平成25年度24回、平成26年度は10回)開催 ・FD講演会(平成24年度31回、平成25年度42回、平成26年度25回)開催 ・がんプロ運営協議会を毎年6月に開催
・医療スタッフの地域定着による地域医療の活性化につながる。	・受入目標数がん専門看護師、臨床放射線技師、検査技師、理学療法士、作業療法士28名(24～28年度56名) ・キヤンサーボード症例検討会(テレビ会議方式)を毎月2回開催する。 ・がん看護事例検討会(テレビ会議方式)を毎月1回開催する。 ・学内外から専門家を招聘してFD講演会を定期的に開催し医療レベル向上を図る。 ・地域医師会等の連携事業を開催する。	・医療スタッフのキヤンサーボード症例検討会を開催して多職種協働の医療スタッフを養成する。 ・e-learning教材科目の一部を公開して、その内容を学修することで、医療スタッフの質の向上を図る。 ・がん看護事例検討会で、がん専門看護師による「ミニレクチャ」コーナーを設けて医療スタッフの質の向上を図る。	・受入実績数がん専門看護師、臨床放射線技師、検査技師、理学療法士、作業療法士26/28名 ・修了者数10名 ・キヤンサーボード症例検討会(平成24年度22回、平成25年度24回、平成25年度は10回開催) ・がん看護事例検討会(平成24年度10回、平成25年度10回、平成26年度6回)開催 ・FD講演会(平成24年度31回、平成25年度42回、平成26年度25回)開催

<p>・休業中の医療スタッフの地域がん医療への復帰を促進される。</p>	<p>・受入目標数看護師9名(24～28年度17名) ・がんボード症例検討会(テレビ会議方式)を毎月2回開催する。 ・がん看護事例検討会(テレビ会議方式)を毎月1回開催する。 ・学内外から専門家を招聘してFD講演会を定期的に行い医療レベル向上を図る。 ・地域連絡協議会を毎年1回開催する。</p>	<p>・医療スタッフのがん看護事例検討会(テレビ会議方式)を開催して、がん看護実践内容を大学教員やがん看護専門看護師とのディスカッションを通して、休業中の看護師等の地域がん医療への復帰を促す。 ・休職者が参加しやすいよう、科目開講時の託児所の設置する。 ・がん看護事例検討会で、がん専門看護師による「ミニレクチャ」コーナーを設けて医療スタッフの質の向上を図る。</p>	<p>・受入実績数看護師8/9名 ・修了者数5名 ・がん看護事例検討会(平成24年度10回、平成25年度10回、平成26年度6回)開催 ・出産、子育ての理由で休職せざるを得ない看護師がいることを配慮し、平成24年度から石川県立看護大学が開催する市民公開講座、リンパ浮腫研修、がん倫理検討会などでは、託児システムを設置し、休職者が一人でも多く参加しやすい工夫を行った。</p>
<p>・国際的レベルの優れたがん研究能力を有する高度がん研究医の早期養成に繋がる。</p>	<p>・受入目標数がん研究医師8名(24～28年度20名) ・金沢大学、富山大学および福井大学において、がんに関連した臓器横断的な講座を設置する。 ・がんボード症例検討会(テレビ会議方式)を毎月2回開催する。 ・学内外から専門家を招聘してFD講演会を定期的に行い医療レベル向上を図る。</p>	<p>・がん診療拠点病院の診療医が高度な最新の治療法を習得する。 ・国際がん治療学分野の講座を設置して国際的視野習得のため一定期間の海外研修を義務づける。 ・米国人英語講師による医学英語教室を開講して、英語による口演や論文作成等ができることを目指している。</p>	<p>・受入実績数がん専門医師5/8名 ・平成25年度は3名、平成26年度は2名)を受入れて、履修生はe-learningによる各特論を履修およびがんボード症例検討会の受講もしている。 ・大学院生が、平成26年8月に第29回国際HPV学会(米国:シアトル)で研究成果を英語で発表した。 ・平成25年度から現在まで大学院生を著者とする英語論文は14編(うち筆頭2編)を数える。</p>

5. 推進委員会からの選定時における要望及びコメントへの対応状況

(1) 推進委員会からの選定時における要望事項への対応状況(事項毎に10行以内で記入)

推進委員会からの要望事項	対応状況
①計画を着実に実行する一方で、推進委員会からのコメントや社会のニーズ等も踏まえ、外部委員による外部評価を毎年度実施してPDCAサイクルを確立することにより、プログラムの発展的な見直し(ブラッシュアップ)を不断に行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の履行状況の確認等は、テレビ会議による総務委員会等で定期的に検証されている。 ・外部委員を含む評価は、定期的に開催される北陸3県の自治体、医師会、がん診療拠点病院等と、5大学のがんプロ関係者で構成している北陸がんプロ運営協議会において行われている。 ・平成24年度からテレビ会議システムによるがん看護事例検討会で、その効果や内容等についてアンケート調査を実施して定期的に検証を行っている。
②本事業は国の予算で実施するものであることから、優れたがん専門医療人の養成や先端的ながん研究・診療等を通じて、できるだけ多くの成果や効果を社会に還元し、日本のがん医療の発展に寄与すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・がん診療に携わる医師をはじめとする医療従事者、患者の立場からの情報を、市民公開講座等で発信している。 ・連携5大学と地域がん診療連携病院等が参加するテレビ会議方式によるがん診療連携協議会、がん看護事例検討会を定期的に開催して、がん医療の向上と均てん化を図った。 ・FD講演会として国内外から招聘する講師の講演により、北陸地区のがん医療に携わる医師、医療従事者に最新の情報を提供して地域医療の向上と均てん化を図った。
③成果や効果は可能な限り見えるような形にして(可視化)、社会に分かりやすく発信すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんプロネット」ホームページに市民公開講座の開催案内や講演内容の動画配信、がん最前線の情報や最新治療状況などを分かりやすく解説した動画配信して、一般市民、医療従事者等へのがん情報を発信している。 ・市民公開講座の開催案内や、講演内容を新聞記事として掲載してがんに関する情報の啓蒙を図った。

(2) 推進委員会からの選定時におけるコメント【●:改善を要する点等】への対応状況(事項毎に5行以内で記入)

推進委員会からのコメント【●:改善を要する点等】	対応状況
従来のがんプロフェッショナル養成プランとの相違や具体性にやや乏しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢大学、富山大学および福井大学において、がんの特化した臓器横断的な講座新設により、がんの特化した集学的治療、地域がん医療の質向上など、国内外の機関との連携を通じて、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医の育成を図ることができる。

6. 平成24年度～平成26年10月31日までの取組についての自己評価

これまでの事業全体についての進捗状況の自己評価を下記から選択してください。

選択欄	②おおむね順調に進捗している。
-----	-----------------

- ①順調に進捗しており、当初目標を上回る効果・成果が出ている。
- ②おおむね順調に進捗している。
- ③おおむね順調に進捗しているが、予定通りに進んでいない点も多い。
- ④予定通り進んでおらず、当初目標を達成することが困難である。

上記自己評価に関して、これまでの事業の進捗状況をどのように点検・評価したのか、また、自己評価の結果を踏まえて、今後どのように改善するのかについて、合わせて20行程度で、説明してください。

・本プランの臨床現場でのチームリーダー養成コース(本科生8コース)の履修生は、申請時目標受入人数を上回っており、また、e-learning教材およびカンサーボード症例検討会参加による履修および専攻にする科目における研究も順調である。

・がん研究者養成コース(本科生2コース)の履修生は、申請時目標受入人数を下回っており、高度な研究能力を養成する受入環境を、より一層整備して研究者の獲得を図る計画である。

・がん専門地域がん医療人養成コース(インテンシブ11コース)の履修生は、申請当初は目標受入人数を少し下回っていたが、関連病院を中心にこれまで以上に働きかけることにより、平成26年度から申請時目標受入人数を上回った。今後もe-learning教材および北陸三県に導入されている大学・地域拠点病院を結んだテレビ会議システムを利用し、より一層関連病院を中心に働きかけることにより、地域に根差したがん医療の履修生獲得を図る計画である。

・今後も計画の履行については、外部者が参加する北陸がんプロ運営協議会の他、総務委員会・教務委員会・カンサーボード運営委員会にて定期的に検証されている。

・市民公開講座を開催して一般市民へのがんに関する情報の啓蒙を図り、FD講演会を企画し定期的に研修を行うことにより、教員の資質向上も図られている。

・5連携大学と地域連携がん診療連携拠点病院等と、テレビ会議方式によるカンサーボード症例検討会、がん看護事例検討検討会を定期的に開催し、実践的ながん臨床教育することでき、がん医療の向上が図れた。

7. その他

他大学の参考となるような取組や成果・効果があれば10行程度で記入してください。

特になし

8. 今後の展望

(1) 今後の展望【補助事業期間(予定)】

本補助金選定時に提出した申請書中の「8. 実施計画」の内容を①に記入し、①を踏まえて現時点での今後の実施計画を②に記入してください。(②については、①を踏まえ簡潔に記入してください。)

年度	① 実施計画(選定時)	② 実施計画(現時点)
平成26 年度 11月～	<ul style="list-style-type: none"> ⑦11月 国際セミナーの開催 ⑧1月 内部評価(中間)の実施 ⑨2月 外部評価(中間)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①11月市民公開講座の開催4回(11/2、12/7、12/14、2/7) ②11月FD講演会の開催6回(11/16、11/29、1/18、2/10、2/26、3/15) ③11月がんプロキヤンサーボード(テレビ会議方式)の実施(毎月2回) ④11月がん看護事例検討会(テレビ会議方式)の実施(11/11、12/2、2/10、3/3) ⑤1月総務委員会の開催 ⑥2月キヤンサーボード運営委員会の開催 ⑦2月内部評価の実施 ⑧3月外部評価の実施
平成27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月 全体会議(総務委員会、教務委員会、キヤンサーボード委員会)の開催 事業計画(中期、年度)、アクションプラン等協議 ②5月 ステアリングコミッティ 運営協議会の開催(事業計画承認決定) ③6月 FD研修会の開催 ④7月 医療スタッフ系セミナーの開催 ⑤8月 IPEワークショップ開催 ⑥9月 市民公開シンポジウムの開催 ⑦11月 国際セミナーの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①各研究コース受講生の受入れ ②全体会議(総務委員会、教務委員会、キヤンサーボード委員会)の開催 事業計画(中期、年度)、アクションプラン等協議 ③ステアリングコミッティ 運営協議会の開催(事業計画承認決定) ④FD研修会の開催 ⑤がんプロキヤンサーボード(テレビ会議方式)の実施(毎月2回) ⑥がん看護事例検討会(テレビ会議方式)の実施(毎月1回) ⑦医師以外の医療スタッフ系セミナー開催 ⑧がん臨床教育の実施修練等のための学術調査 ⑨市民公開シンポジウムの開催 ⑩IPEワークショップの開催 ⑪国際セミナーの開催
平成28 年度	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑦ 前年度事業と同じ ⑧1月 内部評価(最終)の実施 ⑨2月 外部評価(最終)の実施 ⑩3月 事業成果報告会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①～⑪前年度事業と同規模を実施予定 ⑫内部評価(最終)の実施 ⑬外部評価(最終)の実施 ⑭事業成果報告会の開催

(2) 今後の展望【補助事業期間終了後】

本項目については、1ページ以内で記入してください。

① 補助期間終了後の事業継続に関する検討状況(選定時)(選定時の申請書の内容を記入してください。)

本プランで新設した3講座については、各大学において予算を確保して存続予定である。
今回のプランで設置した教育コースは基本的に継続させる。
特にがんプロ共通科目の大学連携による単位互換は、北陸地区のがん教育のコンソーシアムの一環として位置付け、教育モデルとなるよう改善・発展させる。

② ①を踏まえた現時点での取組・検討状況 (A) 事業規模
現時点での事業規模の見込みを選択肢より選択してください。(選択肢: 1. 補助事業期間と同等規模、2. 縮小して実施、3. 事業継続は困難)

③ ①を踏まえた現時点での取組・検討状況 (B) 財源の確保
現時点での財源の確保の見込みを選択肢より選択してください。(選択肢: 1. すべての大学で目処が立っている、2. 一部の大学で目処が立っている、3. 検討中、4. 未検討)

④ ①～③の回答を踏まえた現時点での取組・検討状況(自由記述欄) ※ 教育プログラム・コースの継続予定、教員の雇用予定等の検討状況は必ず記入してください。

教育プログラムはカリキュラムにも規定されており、補助期間終了後も大学院のコースとして継続予定である。
新設した3講座の教員の雇用について、平成26年度には当該講座大学院生が8月に第29回HPV国際学会(米国 シアトル)で研究成果を英語で発表するなど、教育効果があることから、当該新設講座教員の雇用継続は有用である。

⑤ ②～④における意思決定の状況
②から④の検討状況について、学内でどこまで意思決定を行っているのかを選択肢より選択してください。
(選択肢: 1. 学長、理事長等、2. 副学長、理事等、3. 事務長、科長等、4. その他(1～3より下位の役職の者))

⑥ ②～④の学内での意思決定状況(自由記述欄)
(②～④における取組・検討状況について、学内でいつ、どのような場(手続き)により意思を決定したのか、記入してください。)

本プランで新設した講座や教育コースについては、本補助金申請の際に各大学で予算確保をした旨、学長決裁を行っており、規程にも記載されている。
補助金終了後の財源は、自己財源「がんプロ教育の実施」として、平成29年度予算作成時に内容を検討し、学長等の承認の上、事業計画に掲載し実施予定である。
また、本事業プランの継続のため5大学横断的な教育組織、教育システムを維持し、引き続き「がんプロ教育の実施」養成に特化した大学院教育を進展させていく。このため、本事業プランの財政的基盤維持に向けて平成20年からがんプロ参加の5大学関係者、学外有識者を役員とした「NPO法人がんプロ認定機構」を立ち上げ活動している。

※1 ⑤、⑥については、本年度の財務省予算執行調査の中で、別添の総括調査票④今後の改善点・検討の方向性により指摘が行われていますので、参照の上、回答してください。

⑦ 事業を継続するために、今後取り組むべきことを自由に記入してください。(自由記述欄)

補助事業終了後、本プランの継続のため、5大学横断的な教育組織、教育システムを維持し、引き続き「がんプロ」養成に特化した大学院教育を進展させていく。このため、本事業の財政的基盤維持に向けて、平成20年度からがんプロ参加の5大学関係者、学外有識者等を役員とした「NPO法人がんプロフェッショナル認定機構」を立ち上げ、補助事業終了後の中核として事業を継続していく。
これまでの事業では医療者や患者、あるいはがんに罹患しやすい年代の一般市民への教育に重点を置いてきた。しかしながら、がん予防の観点からは、子ども達が、がんの正しい知識を通して健康と命の大切さを学び、自らの健康を生涯に渡って適切に管理できるようになることが最も有効な予防法であると考えられる。そこで、東京学芸大学、金沢大学、愛知教育大学、千歳科学技術大学の4大学が連携し、インターネットを利用して教員免許状の更新講習を実施する組織「KAGAC」を利用し、講習科目に小・中学校全教科教諭・養護教諭を対象とした「子どもに対するがん教育のためのがんに関する基礎知識」を公開することとしており、まずは教員レベルから正しい知識を得てもらうよう取り組みを始めている。この取り組みを起点として、さらなるがん教育を展開させていきたいと考えている。